

長期投資の投資信託が挑む企業との対話

伊 井 哲 朗

目 次

- | | |
|------------------------|-------------|
| 1. はじめに | 4. 企業との対話 |
| 2. 日本の家計の長期的な資産形成に貢献する | 5. 議決権行使と対話 |
| 3. コモンズ30ファンド | 6. 終わりに |

1. はじめに

コモンズ投信は、2008年のリーマンショックの真ただ中に投資運用業と第二種金融商品取引業の登録を行い、09年1月から、30年目線で30社程度に長期集中投資を行う日本株の公募投信「コモンズ30ファンド」の運用と販売を開始した。

最初に、コモンズ投信の創業に至る過程を説明する中で、当社における企業との対話の原点を確認してみたい。どのような商品でどのようなビジネスモデルで起業するのかは、06年くらいからディスカッションを始めた。創業メンバーには、各分野の専門家が集まり毎週、議論を重ねた。経験豊かなアナリストからは「企業の30年レポー

トを書きたい」、また、長期投資で著名な米国投信会社での長いキャリアを経験していたファンドマネジャーからは「本当に日本に長期投資の文化を芽生えさせることができるのなら、もう一度、チャレンジしたい」、それぞれの分野の第一人者が日本の資本市場に欠けていると言われた「長期投資」への熱い思いをいつも語っていた。

われわれは、こうした思いを胸にビジネスコンセプトを練り、企業の経営者にプレゼンテーションに回った。すると、多くの経営者から「本音でいうと、今のアナリストやファンドマネジャーはレベルが下がっていると感じている。面談しても話が合わないことが多い」と現状への不満が寄せられた。筆者は、それに対し「人的なレベルは下



伊井 哲朗 (いい てつろう)

コモンズ投信(株) 代表取締役社長兼CIO現職。1984年関西学院大学法学部卒業。同年4月、山一證券(株)入社。営業企画部に約10年間在籍し営業戦略の企画・立案などを担当。メリルリンチ日本証券(現三菱UFJモルガン・スタンレー PB証券)の立ち上げに参画し、法人・個人向け営業を約10年経験後、コモンズ投信(株)の創業と共に現職。12年7月から最高運用責任者を兼務。主な著書に『「普通の人」が「日本株」で年7%のリターンを得るただひとつの方法』(講談社)、『「市場」ではなく「企業」を買う株式投資』(きんざい)がある。